

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 5 年 6 月 調査結果 - -

( 平成 1 5 年 6 月 3 0 日 )

調査期間：平成 1 5 年 6 月 1 7 日 ~ 2 3 日

調査対象：全国の 4 0 2 商工会議所が 2 5 7 2 業種組合等にヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 8 2 製造業 6 3 1 卸売業 2 3 0  
小売業 7 3 4 サービス業 5 9 5

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成15年6月調査結果のポイント】

### **業況D Iのマイナス幅が5カ月ぶりに拡大、景況は依然、停滞感が続く**

6月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（47.8）よりマイナス幅が1.3ポイント拡大して49.1となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

業種別の業況D Iは、建設、卸売でマイナス幅が縮小し、小売で横ばいとなったが、製造、サービスでマイナス幅が拡大し、全産業合計の業況D Iもマイナス幅が拡大した。依然、D I値の水準はマイナス50前後の低水準で推移しており、中小企業の足元では、景気の見通しの不透明さと不況の常態化から、停滞感が漂っている。景気の先行きについては、公共事業の縮小や、消費低迷とデフレ不況に伴う競争激化、単価下落などを訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「公共工事の発注は少ないものの、民間工事等で昨年より若干発注が増えており、業況好転」（管工事）という声の一部にあるものの、「競争が激しく、受注、採算とも厳しい」（一般工事）、「公共工事が落ち込み、一般住宅も不振で最悪の状態が進んでおり、体力のあるうちに方策を考えなくてはいけないが、その方策が見つからない」（一般工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「モバイル関連製品が好調」（電気機器）との声があるものの、「工事は確保されているが、採算割れの状況が続いている」（船舶製造、修理）といった声や、「仕事の海外流出を防ぐため、同業他社や海外企業に無い技術・設備等を導入したいが、金融機関の現状では、そのための融資も難しい」（通信機械器具）といったコメントが寄せられている。

【卸売業】では、「夏物衣料の荷動きが鈍い」（衣服、日用品）、「小売店の仕入総額と商品数が昨年に比べ減少しており、中堅問屋とメーカーの出先の整理・統合が進行している」（各種商品）、「メーカーへの支払い現金化に伴い、資金繰りが大変」（各種商品）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「前年同月のサッカーワールドカップの影響による売上減と比較すれば好調」（百貨店）との声が聞かれるものの、「賞与の時期だが、先行き不安も重なり購買に結びついていない」（商店街）、「中元商戦も今のところ大きな成果は無く、従業員も過剰で採算も悪化」（商店街）、「依然、客単価は減少しており、今後もこの傾向は続きそう」（百貨店）といった声が寄せられている。

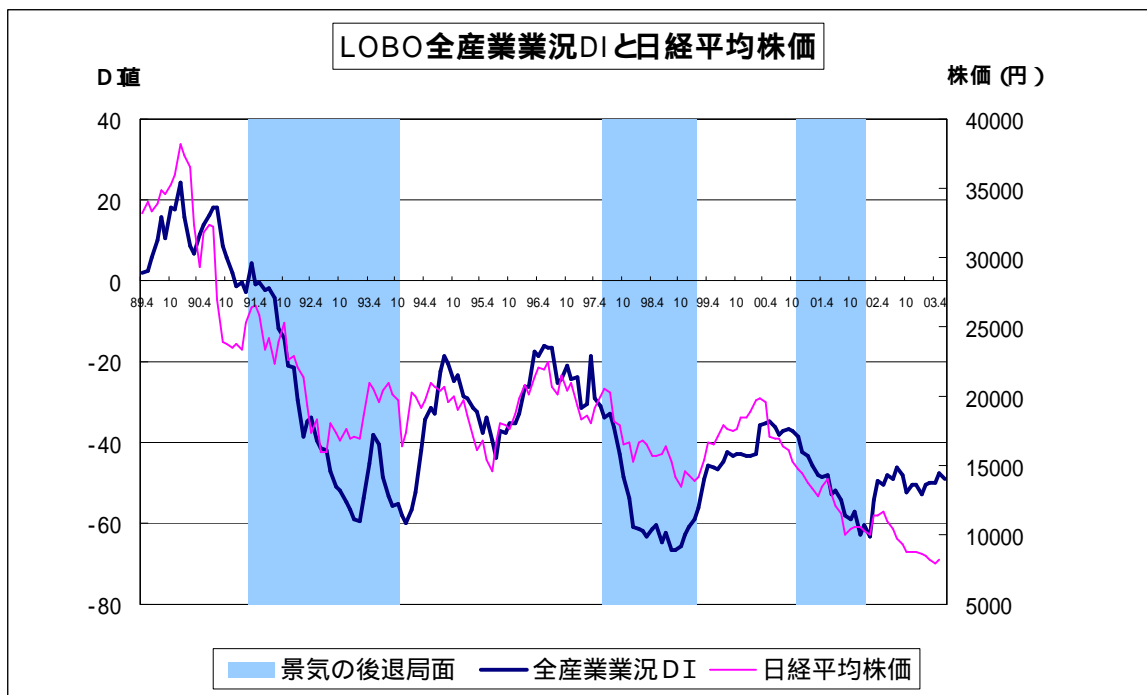
【サービス業】では、「消費低迷の中で、お店を利用する間隔が長くなっており、売上が落ち込んでいる」（美容）、「荷動きは依然、前年割れの状況で、倉庫の稼働率を平成9年と比較すると、78%まで落ち込んでいる」（倉庫）、「例年より夏の予約申込が少ない」（旅館）、「業界内で低価格化が進んでおり、売上減少が続いている」（洗濯）と、需要の低迷とデフレの進行を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は、卸売で前月水準より縮小し、サービスでは横ばいだったが、他の3業種で拡大したため、全産業合計の売上D Iは1.1ポイント拡大して44.7となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は、卸売で前月水準より縮小したが、他の4業種では拡大したため、全産業合計の採算D Iは1.4ポイント拡大して43.0となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(7月~9月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が40.2と、昨年同時期の先行き見通し(36.7)と比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の縮小、消費低迷と競争激化、単価下落などに関するコメントが目立っている。



【業況についての判断】

6月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は業種別の業況D Iが建設、卸売でマイナス幅が縮小、小売で横ばいとなったが、製造、サービスのマイナス幅が拡大したため、前月水準（47.8）より1.3ポイント拡大して49.1となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

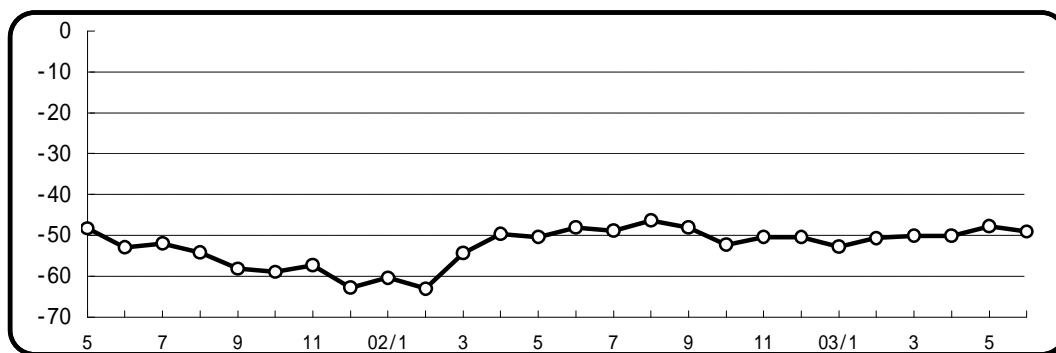
向こう3カ月（7月～9月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が40.2と、昨年同時期の先行き見通し（36.7）と比べて悪化している。

業況D I（前年同月比）の推移

	15年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	52.8	50.7	50.1	50.1	47.8	49.1	40.2 (36.7)
建設	65.5	64.7	64.8	64.7	63.0	61.7	54.9 (56.5)
製造	49.1	46.7	43.9	43.6	40.7	44.3	39.1 (34.0)
卸売	46.2	48.2	54.4	47.9	46.8	44.6	31.3 (35.5)
小売	51.1	48.0	49.2	48.6	46.4	46.4	37.9 (31.9)
サービス	53.4	50.2	46.2	50.0	47.4	51.4	38.0 (33.1)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年6月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

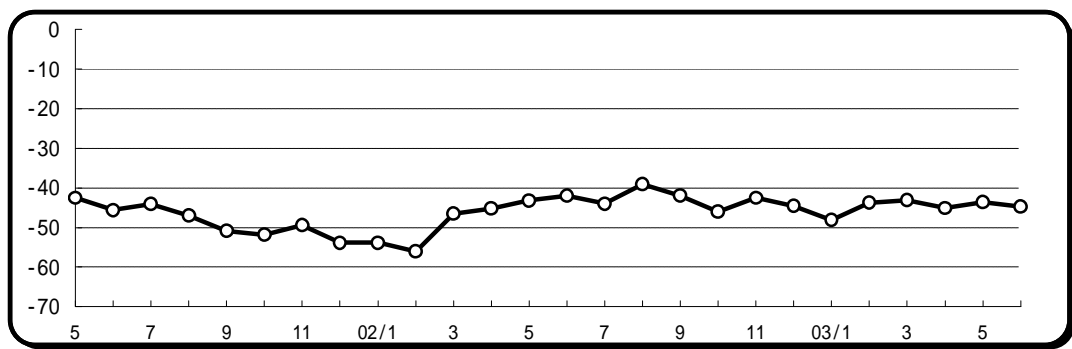
売上面では、D I 値のマイナス幅は、卸売で前月水準より縮小し、サービスでは横ばいだったが、他の3業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は1.1ポイント拡大して44.7となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が34.6と、昨年同時期の先行き見通し(29.5)に比べて悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	15年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	48.1	43.7	43.1	45.1	43.6	44.7	34.6 (29.5)
建設	64.4	57.1	59.0	62.9	58.4	59.2	44.9 (46.7)
製造	39.7	36.8	33.3	34.4	33.3	36.8	34.8 (29.4)
卸売	42.7	41.8	45.9	46.7	47.7	39.2	27.1 (26.0)
小売	45.7	40.8	44.9	46.6	43.3	46.9	35.0 (25.0)
サービス	51.8	46.8	39.4	42.7	43.5	43.5	30.3 (25.2)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

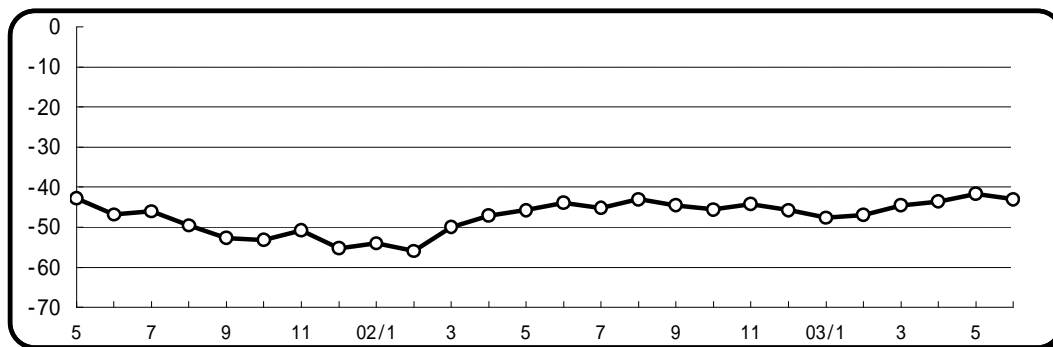
採算面では、D I 値のマイナス幅は、卸売で前月水準より縮小したが、他の4業種では拡大したため、全産業合計の採算D I は1.4ポイント拡大して43.0となり、5カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(7月～9月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が34.2で、昨年同時期の先行き見通し(32.9)と比べて悪化している。

採算D I (前年同月比)の推移

	15年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	47.6	46.9	44.5	43.5	41.6	43.0	34.2 (32.9)
建設	61.6	63.4	61.9	58.3	60.1	62.2	51.3 (50.0)
製造	47.6	46.3	42.5	39.5	37.0	38.6	36.5 (32.0)
卸売	34.5	40.0	45.0	39.6	40.7	39.8	28.3 (29.0)
小売	40.7	39.7	38.5	41.3	36.2	36.6	26.0 (27.9)
サービス	52.0	48.8	42.2	42.2	41.3	44.4	32.8 (30.1)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	15年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	37.1	38.0	37.6	36.2	32.9	32.9	30.3 ( 29.7)
建設	50.8	54.0	55.2	50.9	46.8	48.9	50.0 ( 45.1)
製造	39.8	39.6	36.6	35.5	33.8	33.7	32.3 ( 33.4)
卸売	28.9	31.9	31.5	34.1	28.9	25.7	24.1 ( 21.8)
小売	28.9	33.1	31.2	27.9	26.2	26.2	22.3 ( 23.2)
サービス	36.7	32.0	34.9	36.8	30.8	30.4	26.9 ( 26.2)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設で悪化超感が強まり、小売で横ばいだったが、他の3業種で悪化超感が弱まり、全産業合計では横ばいだった。

【先行き見通しD I】製造、小売を除く3業種で昨年同時期に比べ悪化超感が強まり、全産業合計でも悪化超感が若干強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	15年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全産業	2.3	2.9	7.4	5.5	4.3	3.6	4.6 ( 1.2)
建設	1.8	0.7	2.6	2.6	2.5	0.4	4.2 ( 0.7)
製造	14.1	16.2	18.5	16.5	17.7	15.4	10.7 ( 7.7)
卸売	2.9	0.0	11.9	1.2	5.8	0.0	7.3 (1.2)
小売	4.6	7.4	1.6	1.2	6.5	4.0	1.4 (5.3)
サービス	3.0	5.0	8.2	5.4	3.2	3.6	4.7 ( 3.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】小売、サービスを除く3業種で上昇超感が弱まり、全産業合計では上昇超感が3カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べ上昇超感が強まり、全産業合計でも上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	15年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7～9月
全産業	15.3	16.0	16.7	14.8	14.4	14.1	14.0 ( 13.6)
建設	31.9	35.3	36.4	33.2	34.3	34.3	29.8 ( 32.2)
製造	20.9	20.7	18.0	19.4	19.6	17.1	16.3 ( 18.3)
卸売	14.0	16.5	21.9	13.6	13.5	14.5	16.9 ( 11.9)
小売	5.8	6.7	6.6	5.1	3.6	5.2	5.8 ( 4.0)
サービス	10.0	9.5	12.2	9.6	8.9	8.2	9.7 ( 7.7)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】卸売、小売で過剰超感が強まり、建設で横ばいだったが、製造、サービスで過剰超感が弱まり、全産業合計でも3カ月連続で過剰超感が若干弱まる。

【先行き見通し D I】建設、製造で昨年同時期に比べ過剰超感が弱まったが、他の3業種で過剰超感が強まったため、全産業合計でも過剰超感が若干強まる見通し。



【平成15年6月の景気キーワード】

不況の常態化

不況の常態化と先行き不安感を訴える声が多く寄せられている。「受注工事の減少と金額の低下が続いており、好転の兆しが見えない」(北九州・電気工事)「売上は伸びているが楽観的な考えは少なく、先行きの見えない状況に、下降線をたどるという不安がある」(延岡・建設建築用金属製造)「中国向け輸出の売上が引き続き堅調であるが、向こう3カ月の受注については陰りも見られる」(大阪・繊維機械製造)といった声や、「各種卸売とも、依然、先行き不透明であるが、前年並みに推移している」(帯広・各種商品卸売)「業界全般に底を打ったとはいうものの、業況は今ひとつで、全体的に先行き不安感を訴える企業が多い」(倉吉・農畜産水産物卸)「一部小売店では売上高、業況も改善されたように見えたが、大型店舗では売上減少、トータルではほとんど変わらない」(小山・商店街)「悪い状態から抜け出せず、空き店舗が増えている」(高岡・商店街)「一進一退の状況が続いている」(山形・理容)「特に変化は無く、低い水準のまま停滞している状況」(川崎・食堂、レストラン)との声が寄せられている。また、「業況回復のためには、自ら考えてオリジナリティを出すことが重要と考える」(網走・バー、飲食店等)といったコメントも寄せられている。

競争激化・単価下落

デフレ不況に伴う競争の激化と単価下落に関する声も目立っている。「受注量が少ない中、異業態への参入が目立ち、業界秩序に乱れ」(釧路・一般工事)「ダンピング受注が増加傾向にある」(別府・建築工事)「量的には潤っているが、さらなる短納期、低単価、高品質を求められている」(長岡・鉄素形材製造)「親会社はかなりの利益を出しても、下請けには単価の切り下げ、たたきあいの風潮が普通となった」(銚子・輸送機器)「その企業独自の販売促進企画を進めているが、同業種間の競争は激化」(美濃加茂・飲食料小売)「ヒット商品が見当たらない上、デフレにより単価が下落し売上減少となる構造で、全体のパイが広がらない。競争激化によるサービス合戦、リストラなど先の見えない体力勝負の消耗戦が続く、業界再編も進むと考えられる」(札幌・百貨店)「一般修理、車検整備代ともにデフレ傾向は続き、競争が熾烈になっている」(豊橋・自動車整備)「手っ取り早く簡単な飲食業へ素人が流れ込んで店舗数が増加しているが、業界の飽和状態と不況でますます客数が減少」(鹿児島・喫茶店)といった声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード	
15年	4月	先行き閉塞感	イラク戦争・SARS
	5月	不況の常態化	SARS問題
	6月	不況の常態化	競争激化・単価下落

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「公共工事の発注は少ないものの、民間工事等で昨年より若干発注が増えており、業況好転」(管工事)「介護施設については、比較的大きな設備投資が見られる」(一般工事)といった声の一部にあるものの、「競争が激しく、受注、採算とも厳しい」(一般工事)「リフォームは多いが新規の工事はほとんど無く、公共工事も低価格化が進み、大手が参入し地元企業が落札できない状況」(大工工事)「公共工事が落ち込み、一般住宅も不振で最悪の状態が進んでおり、体力のあるうちに方策を考えなくては行けないが、その方策が見つからない」(一般工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは5カ月ぶり、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは6カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「モバイル関連製品が好調」(電気機器)「受注量が徐々に増えてきた」(金属加工機械)「一時的現象と思われるが、設備関連(電力等)建設機械(油圧部品)半導体関連の装置産業等の部品の受注に動きが出ている」(金物類)といった声があるものの、「工事量は確保されているが、採算割れの状況が続いている」(船舶製造、修理)「官公庁の入札価格が下降し、商業印刷物も低迷している」(印刷)「材料商社から材料(ステンレス・ピアノ線)の価格改定と言って、実質値上げ交渉を迫られている」(金属製品)という声や、「仕事の海外流出を防ぐため、同業他社や海外企業に無い技術・設備等を導入したいが、金融機関の現状では、そのための融資も難しい」(通信機械器具)といったコメントが寄せられている。
卸 売	業況D Iは3カ月連続、売上D Iは4カ月ぶり、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「夏物衣料の荷動きが鈍い」(衣服、日用品)「単価の低い商品ばかりがよく動いている」(その他卸)「消費者も限られた予算で買い物するようになり、以前のような余分なものは買わないという動きがある」(食料、飲料)と、消費低迷を訴える声や、「小売店の仕入総額と商品数が昨年に比べ減少しており、中堅問屋とメーカーの出先の整理・統合が進行している」(各種商品)「メーカーへの支払い現金化に伴い、資金繰りが大変」(各種商品)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは前月比横ばい、売上D I、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「前年同月のサッカーワールドカップの影響による売上減と比較すれば好調」(百貨店)との声も聞かれるが、「父の日などイベントに対するお客様の動きは見られるが、自家需要的様相の強い買い物にはシビアで、数量、単価とも伸びない」(百貨店)「賞与の時期だが、先行き不安も重なり購買に結びついていない」(商店街)「中元商戦も期待感を持っているが、今のところ大きな成果は無く、従業員も過剰で採算も悪化」(商店街)「依然、客単価は減少しており、今後もこの傾向は続きそう」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは2カ月ぶり、採算D Iは5カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上D Iは前月比横ばいとなった。「消費低迷の中で、お店を利用する間隔が長くなっており、全体的に売上が落ち込んでいる」(美容)「荷動きは依然、前年割れの状況が続いており、倉庫の稼働率を平成9年と比較すると、78%まで落ち込んでいる」(倉庫)「例年より夏の予約申込が少ない」(旅館)と、需要の低迷や、「業界内で低価格化が進んでおり、売上減少が続いている」(洗濯)「官公庁の入札での落札額が厳しい」(ソフトウェア)と、デフレの進行を訴える声が寄せられている。また、「同業者間でも繁閑の差が生じている」(一般飲食店)とのコメントも寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)をみると、北海道、東海でマイナス幅が縮小、東北で横ばいとなり、他の6ブロックでマイナス幅が拡大したため、全ブロック合計でも拡大した。

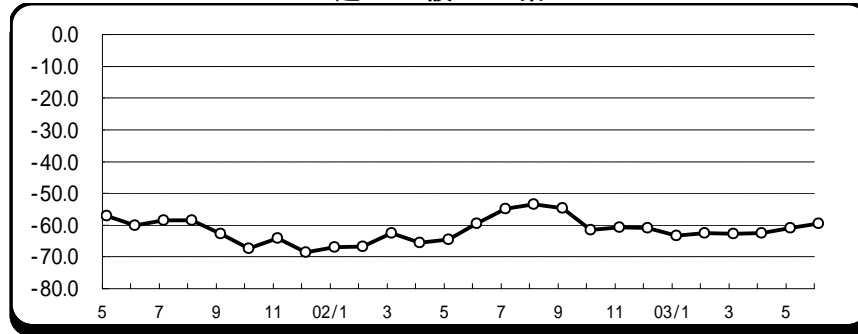
ブロック別の向こう3カ月(7月~9月)の業況の先行き見通しは、北海道、東北、東海、四国を除く5ブロックで昨年同時期の先行き見通しと比べ悪化しており、全ブロック合計でも悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	15年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7~9月
全 国	52.8	50.7	50.1	50.1	47.8	49.1	40.2 ( 36.7)
北海道	55.7	44.4	46.2	44.3	47.0	41.5	33.6 ( 42.4)
東 北	52.6	55.2	54.7	54.7	46.8	46.8	37.2 ( 44.8)
北陸信越	51.3	51.1	49.2	47.3	44.3	45.0	36.1 ( 32.6)
関 東	54.5	50.0	54.7	50.9	47.4	48.9	38.9 ( 31.5)
東 海	45.5	41.4	43.6	45.4	50.3	42.8	37.1 ( 37.9)
近 畿	54.3	53.7	49.6	50.9	49.6	55.6	46.5 ( 42.4)
中 国	50.3	52.7	48.7	56.8	45.1	47.2	43.0 ( 35.6)
四 国	65.5	58.2	56.6	45.9	51.8	52.3	40.5 ( 44.2)
九 州	48.1	50.3	43.3	51.1	47.9	56.3	45.3 ( 30.5)

## 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

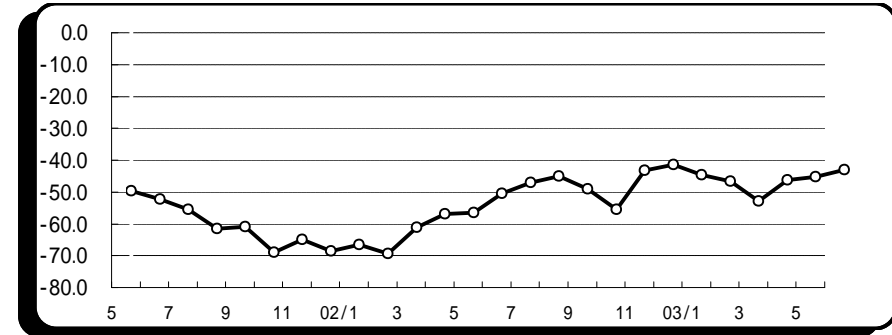
### 建設業



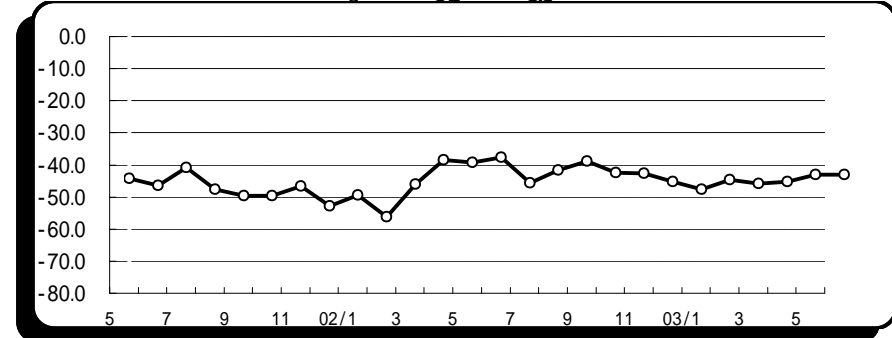
### 製造業



### 卸売業



### 小売業



### サービス業

